

鳥取県立美術館候補地評価表

区分	1		2		3		O	OA	△	△x	x	計
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)						
1.鳥取市役所跡地	宇山	OA										
	船越	OA										
	佐分利	△										
	川井	△										
	中島	△										
	野田	△										
	前田	△										
	谷本	△										
	里見	△										
	牧野	△										
	香川	△										
	前野	△										
	宇山	△										
	船越	△										
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											
宇山	△											
船越	△											
佐分利	△											
川井	△											
中島	△											
野田	△											
前田	△											
谷本	△											
里見	△											
牧野	△											
香川	△											
前野	△											

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な施設確保・施設整備が復元整備で可能な場所	
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。
宇山委員	○ ⇒○△	-	-	-	×	-
船越委員	△	○	-	-	×	-
佐分利委員	○	○	○	○	△	○
川井委員	△	△ ⇒○△	△	△	×	-
中島委員	△	△	○	△	×	△
野田委員	△	○	△	△ ⇒△×	×	△
谷本委員		-	-	△	-	-
前田委員	○	○	○	○	⇒△	-
里見委員	○	○	○	○	×	○
牧野委員	◎ ⇒○	○	○	△	△	△
香川委員	○	○	○	○	×	△ ⇒△×
前野委員	○	○	○	○	×	△

総合的には×と評価する。

着工が33年以降になりそう  
で、遅すぎるのではと思われ  
る。

懇念は、市庁舎建て替えは新  
築となっており、計画通り進  
むかどうか不透明な要素があ  
る

旧線跡とそうでない地盤の違い  
が大きいので、掘削部の十分  
な改良が必要か。

	1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が国力安価で可能な場所			
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。		
宇山委員	鳥取駅より1km程度で交通アクセスも利用しやすくなっている。わらべ館の駐車場がなくなるので、駐車場の確保が必要になる。西町緑地、わらべ館の合わせて敷地は4400㎡であり、美術館の高層化が必要とあるが、周辺は住宅や商業施設が混在しており、周囲の環境を考慮した場合難しい。今は西町緑地があるため落ち着いた環境になっていると思う。	-	-	-	-	-		
船越委員	中心市街地であり、公共交通の便は良い。但し、自家用車で来館する場合の駐車場の確保に難がある。大規模の駐車場が設置されないと、わらべ館への来訪者と年齢層が異なると思われるので、双方の来館者がそれぞれ集中すると駐車できない事態が生ずる可能性が大と考える。	-	-	西町緑地整備の際、移転した住宅を含めて隣接する住宅地があり、日照権の問題等はクリアできるのか？	×	敷地面積に難がある。高層との提案もあるが、地方の美術館で高層階はイメージできない。更に十分な駐車場が確保できるのか？との懸念がある。従って適合しているとは言いがたい。		
佐分利委員	バスの便が良く、JRの駅や、鳥取の街中から、様々な人が訪れやすい。	隣接するわらべ館は、県外からの訪問も多く、子どもから年配まで楽しめる。博物館、県立図書館、とりぎん文化会館、久松公園にも近い。	○	わらべ館、博物館との連携が見込まれる。	○	習頭街道を美術館、わらべ館、博物館への通りとして、太平洋通り、ロータリー、習頭橋を通る、ゆっくり歩いて楽しめる街づくりを進める。通りには、おもちゃ屋、楽器屋、お菓子屋、洋服、楽器屋、道具屋等々残っている。歩道の拡張共同した整備が必要。	用地としては、手狭である。駐車場もわらべ館と共用で、福祉文化会館跡地という道路を挟んだ場所になる。狭い。上に高い建物が、地下に伸びる建物になる。街の景観を損ねかねない。ユニバーサルな施設、周辺環境の点で不十分さが予測される。	
川井委員	わらべ館前にバス停があり、また、街道沿いの立地、駅から徒歩25分程度の場所にあることは、交通アクセスが便利・容易と評価できる。しかし、敷地が狭く駐車場の確保が困難。福祉文化会館跡地を駐車場とする案もあるが、道路を挟むという難点あり。	周辺に全県民が訪れるような商業施設等が存在するわけではない。また、徒歩圏内にとりぎん文化会館やわらべ館等の集客施設があることは鳥取市役所跡地や県立武道館敷地と同様であるが、わらべ館に隣接する緑地をつぶして美術館を建設することは、これまでわらべ館を訪れていた子どもたちの遊び場を奪うことである（代替施設があればよいという問題ではなく、わらべ館と一体となっていることに意味がある）。かえって集客力を損なうことが考えられる。 <small>（別添追加資料参照）</small>	×	西町緑地敷地は、わらべ館を訪れた親子の遊び場、憩いの場として利用されている。視察を実施した日も春休みで訪れた子どもたちが遊んでいた。緑地をなくして美術館とする必要性に大きな疑問を感じる。	×	同左	同左	
中島委員	鳥取駅に近く、バスの回数もあり。ただ西部からは車2時間かかる。	わらべ館、仁風閣などがある。	○	博物館、図書館などがある。	△	市街地ですので。	面積が4,400㎡で、余りにも狭く。	
野田委員	△	△	△	わらべ館との連携は期待できるが、観客層は必ずしも一致しない	×	わらべ館に隣接する広場はこどもの遊び場となっており、これをなくすことは忍びない	△	
谷本委員	-	-	-	-	×	市街地の中心にあり、美術館や他施設について立ち寄りという行動を介して波及効果が見込まれるもの。敷地面積が狭く、また、近隣に住宅が密集していることから、生活への影響が懸念される。	-	
前田委員	○	JR鳥取駅から徒歩16分となんとか駅から歩ける距離である。	○	県立博物館、仁風閣などの文化施設と徒歩でも行ける距離であり、誘導可能な地である。	○	わらべ館が隣接しており、文化施設としての連携効果が期待できる（年間12万弱）	△	立地場所としては良いが、もう少し広い敷地面積がほしい。駐車スペースが近くに取れないこと。
里見委員	△	・最寄りのJR駅が鳥取駅で、距離が12km ・鳥取駅からは路線バスが3本/時間程度あり、バス停よりすぐ ・県東部、関西からの車のアクセス比較的恵まれている	○	・隣接の童謡館との連携が可能である	○	・隣接の童謡館、近隣の鳥取博物館があり連携しての機能強化しやすい	○	市街地にあり、地元商店街、住民との地域づくり可能性がある。
牧野委員	◎	JR特急停車駅から徒歩圏内（やや遠い）であることは、候補地の中で最良。バス便も良好。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との接近性は最良。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との接近性は最良。	△	すでに熟成した高度な商業地域を形成しており、一方では、今後に向かって、美術館立地が更に貢献する伸びしろは低い（投資効果は低い）。
香川委員	△	バス（くる梨）が利用可。鳥取駅から徒歩圏。駐車場機能が損なわれ、やや離れた駐車場を利用せざるを得ない。観光バスの駐車に難。	○	鳥取市民会館と連携可能。とりぎん文化会館との連携も可能か。	○	わらべ館との連携が考えられるが、密着は同じか。一貫した外観デザインは必要か。県立図書館、公文書館との文教連携は可能。	×	習頭街道との連携。わらべ館隣接の駐車場（観光バス駐車可）および緑地を失うことで、わらべ館の魅力が削がれないか。
前野委員	○	市街地の中心に位置しており、鳥取駅から徒歩も可。循環バス等の便が良い。他の委員から駐車場の確保が現状でも困難であるとの意見があったため、△に変更する可能性があったが、駐車場案内システムや鳥取駅前周辺地区の駐車場不足に対する対応策に着手する旨の説明があったため◎を維持する。	○	鳥取砂丘、鳥取砂丘子供の国、鳥取県立博物館、鳥取市歴史博物館、仁風閣	○	鳥取県立博物館、鳥取市歴史博物館	○	鳥取市の中心に位置している
								隣接の住宅地等を追加買収する可能性があれば悪くない場所。
								敷地面積が4474㎡では、建物規模を考慮すると高層化が前提となり、展示計画、駐車場問題、屋外展示場確保など問題がある。
								敷地が小さいのでは？周辺に複数の駐車場があっても、他所であるため利用されがたい県民性がある。
								やや狭い。周辺に観光バスを止められる駐車場を新たに確保する必要がある。展示計画、駐車場の確保。民有のカフェとの連携は。
								西町緑地敷地は現在子供が遊べる芝生広場となっており現在有効活用されている。駐車場2526㎡と緑地1948㎡を合わせても面積的に十分でないと考えられる。

余りに敷地が狭いのが、他の点で合格してもダメではないか。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと

	1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所	
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。
宇山委員	×	交通アクセスは十分確保されているが、駐車場確保が課題である。周辺は県立博物館、仁風閣、久松公園と観光地があるが、県庁駐車場も利用しているが慢性的に駐車場不足にある。現状では駐車場の確保について明確になっていない。	—	—	—	—
船越委員	×	県庁に隣接していることもあり、公共交通利用のアクセスは良い。但し現地に於ける説明で、県の各関係部署の考えは、美術館が隣地に建設されるのは迷惑と言わんばかりに感じられた。緑地との一体化が困難とすれば駐車場の確保は不可能である。	○	博物館とは至近距離にあり、相互に誘導は可能。	—	土地は隣接する県有地との一体化ができなければ狭小である。
佐分利委員	△	通常のバス通りから少し離れている。「くる梨」が回る。駐車場スペース、特にバスや、障がい者用の駐車場がとれるか分からない。	○	久松公園、仁風閣、博物館、寺院、図書館、とりぎん文化会館等に近い。特に鳥取城址の文化施設群として一連の訪問先となり得る。	○	博物館、図書館との連携、高校、小学校、中学校教育との連携と、生涯教育、学校教育両面での興味深い連携ができる。
川井委員	△	付近にバス停あり、街道に面した立地はアクセスが便利・容易といえる。しかし、敷地の狭さから、駐車場の確保が困難と思われる。鳥取西高校への入り口道路を確保する必要があり、駐車場の形状にも制約が多いのではないかと。	△ ⇒○△	徒歩圏内にとりぎん文化会館やわらべ館などの集客施設がある点において、前者のイベント時や後者を訪れる親子連れなど県民の誘導を期待できる。この点は、鳥取市役所跡地やわらべ館と同様である。 (別添追加資料参照)	○	鳥取博物館からの距離が比較的近く、文化施設との連携が可能という評価はできる。
中島委員	○	県庁近くで市街地なので。	△	わらべ館少し遠い。仁風閣メジャーでない。又博物館・歴史博物館は近いが、多分何か所も見られる人は少ないでしょう。	○	図書館・博物館・とりぎん文化会館など近くに色々な施設がある。
野田委員	△		△	文化施設や教育機関との近接性は市庁舎跡地と同じ。しかし、県庁と鳥取西校に挟まれ、敷地が狭い。	× ⇒△×	後者は久松山で地域づくりにとっては地理的に不利。武道館の市民体育館への併合がスムーズに行くかわからない。
谷本委員	—		—		△ ⇒△×	博物館に近く、文教面での連携がとりやすい立地である。しかし、埋蔵文化財の調査や県との連携に関する調整のハードルが高く、また、高校への動線が輻輳することから、地域づくりへの貢献が十分に発揮できないリスクが無視できない。
前田委員	△ ⇒○△	JR鳥取駅から徒歩20分と、徒歩では行きやすい距離とは言えない。	○ ⇒○△	文化施設との誘導は可能であるが、敷地面積、交通アクセスなど総合的に考えると。	○	鳥取博物館、仁風閣、鳥取城址と文化施設との連携効果は期待できる。
里見委員	△	・最寄りのJR駅が鳥取駅で、距離が1.5km ・鳥取駅からは路線バスが3本/時間程度あり、バス停よりすぐ ・県東部、関西からの車のアクセス比較的好まれている	△	・周辺は鳥取博物館、仁風閣、久松公園があり文化拠点となっている	○	鳥取博物館が近隣にあり連携しての機能強化しやすい。
牧野委員	○	JR特急停車駅から徒歩圏内(やや遠いが)であることは、候補地の中で最良。バス便も良好。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との近接性は最良。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との近接性は最良。
香川委員	○ ⇒○△	バス(くる梨)が利用可。近隣に駐車場を整備する必要がある。県庁北側緑地が候補か。	○	とりぎん文化会館、県立博物館、県立図書館、公文書館との連携も可能か。	○	博物館に加え、仁風閣をはじめとする城址公園との連携は取り易い。
前野委員	○	市街地の中心に位置しており、循環バス等の交通の便が良い。他の委員から駐車場の確保が現状でも困難であるとの意見があったため、△に変更する可能性があったが、駐車場案内システムや鳥取城跡周辺地区の駐車場不足に対する対応策に着手する旨の説明があったため○を維持する。	○	鳥取砂丘、鳥取砂丘子供の国、鳥取県立博物館、わらべ館、鳥取市歴史博物館、仁風閣	○	鳥取県立博物館、わらべ館、鳥取市歴史博物館など

武道館は武道館として、あの場所にある意味もあると思われる。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所							
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。						
宇山委員	美術館来訪者のうち、日ノ丸自動車の湖山池線（鳥取駅～鳥大付属高（布施経由・相生町、西品治経由上り、下り））を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日5本～7本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり下りは3分～2時間50分、上りは30分～1時間5分程度と利用しづらい。ループ線湖山池ナチュラールガーデン下車もあるが夏季（7/20～8/31）土日祝日限定になっている。増便、バス停の新設は、地域、行政から要望があって初めて検討課題になるようです。	-	-	-	-	-	近くに養鶏場があるとのこと で、匂いが感じられることも あるようです。					
船越委員	JR湖山池からは1.5Km程度であるが、コンセプトにあった主要駅とは多分特急列車が停車する駅との事である。そう考えると鳥取駅が起点となり、7Kmになる。となると徒歩圏内ではなく、各駅停車に乗り換え湖山池まで行くか、路線バスに乗り換える事になる。ただ、路線バスの便は良いとは言えない。増便も考えられるが、美術館に行く乗客のみの増便では採算が合うのは難しいのでは。駐車場の確保は十分可能と思える。	△	△	一見して郊外の住宅街と見受けられ、地域づくり・まちづくりとの連携はイメージがわかない。	-	可能と見受けます。	近隣の飲食関連施設が最長でも1.2Km程度離れているとの事で、この点はマイナス要素。 過去に湖山池から異臭が発生するという騒ぎがあったが、今後同様の事象が発生する懸念はないか。					
佐分利委員	バス路線はあるが市内に比して、台数が少ない。JR鳥取大学前駅は米子方面の特急も止まり、約1時間と便利である。自動車道、空港からは、市街地を通らずに来ることができ、便利である。駅は徒歩圏内だが、特に駅から空港線までの歩道の安全確保が必要。	○	○	鳥取大学と隣接している。布施運動公園も徒歩圏内である。遺跡もある。かっこ館という博物館も近い。鳥取大学附属学校園、4高校、2小学校、1中学校、保育園、幼稚園が近くにある。子どもたちに美術館が身近になる。	○	ゆったりとした、ユニバーサルな施設を整備できる。周辺道路も歩道整備が必要。美術館ができることで、湖山池の眺望を車椅子等でも楽しむことができる。	○	湖に面した鳥取美術館と似てくるので、どのような特徴を出すかが問題である。				
川井委員	国道9号線から南に入ったところであり自動車でも来訪しやすい面はある。鳥取駅から1日12便のバス。土・休日にはループバスが1日12便運航とのことであるが、便数が少なく、所用時間が45分と長い。	×	鳥取市の他の候補地と比較しても、近隣（たとえば徒歩圏内）は住宅地や大学等の教育施設はあるが、買物客等の乗客を見込める施設はなく、商業施設を誘引した人を誘導すること困難である。  (別添追加資料参照)	○	周辺に鳥取大学、同大学附属幼稚園、小学校、中学校があり、学生の往来がある。教育機関との連携しやすい立地と評価できる。	△	-					
中島委員	鳥取駅から時間がかかる。バスの回数が少ない、また西部地区から2時間。	△	布施運動公園、出合いの森、青島公園があるが。	○	鳥取大学	×	市街地ではないので、近くに食事をするようなところもない。	面積としては10,000㎡なので県の土地を入れれば。	○			
野田委員	アクセスが悪い	×	湖山池地域全体の観光地化戦略が先に必要	△	鳥取大学との連携は考えられる	△	湖山池は魅力的な観光地となっていない	○	△			
谷本委員	-	-	-	-	×	△	眺望がよく、また、鳥取大学をはじめとする教育機関に近いが、美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が近隣に見当たらない。湖山池の利活用に関する総合的な戦略があり、それに合致していれば可能性はあるが、現時点では、地域づくりへの寄与は限定的と考えられる。	-	-			
前田委員	交通アクセスが良くない。	×	湖山池の景観は良くても、美術館としては無理。	×	文化施設の連携に期待できない。	×	近くに大学・高校・中学校があり学園地域であるが、少し距離がある。その点では地域貢献できるが、他の文化施設が周りに見られない。	⇒○△	-			
里見委員	・最寄りのJR駅が鳥取大学駅で、距離が1.2Km ・鳥取駅からは路線バスが12本/日程度あり、バス停よりすぐ ・県東部、関西からの車のアクセス比較的恵まれている。	△	・車移動を前提とした施設が周辺に存在する	△	・付近に鳥取大学があり、連携が可能である	△	・付近に鳥取大学があり、連携が可能である。	・敷地面積にゆとりがないが、隣接地が調整により利用可能となれば建築計画にメリットがある。 ・下水道未整備地区で、合併処理のコスト増となる	○	問題なしと考える		
牧野委員	JR特急停車駅から徒歩圏内ではない。県外、国外からの誘客を想定する時、普通列車の停車駅とのアクセスは価値低。バス使用も良好とは言えない。 最寄公共交通機関に関しては、鳥取駅、倉吉駅、米子駅、鳥取空港、米子空港、境港を意図すべき。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。	×	連携しうる他の施設が無いことと相まって、美術館新設に誘導されての他施設の新規立地が期待薄。	×	郊外型の場合は、周囲に施設が無くても、それ自身が魅力的な建造物、工作物、敷地景観を要すると思われるが、結果、費用増大。	-		
香川委員	バスは少なく、JR駅から徒歩圏ぎりぎりであり、車での移動が主となる。 駐車場は整備可能。	△	オアシスパーク、湖山池情報プラザとの連携は可能か。	○	鳥取大学や高校と連携した文教地区の構築が期待される。	△	周辺に飲食店や店舗ができる余地はある。	○	広さは良い。 駐車場およびその車を流す道路整備など総合的な開発が必要。	△	河川災害には対応可能。土砂災害の影響は小さいと思われる。周辺観測では地盤卓越周期0.8秒程度であり軟弱層が比較的厚いと思われる。	できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。地震時の液状化可能性も要確認。
前野委員	路線バスの便数1日十数便、土日祝日夏季はループバス有	△	湖山池公園・湖山池オアシスパーク	○	鳥取市の郊外に位置し、鳥取大学、オアシスパークを公園美術館と連携して利用できる	○	湖山池の景色と鳥取大学との連携等により地域づくりに貢献できると考えられる	○	鳥取市有地、10000㎡、隣接して県有地1.64haがある。	△	千代川浸水想定0-0.5m	

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が後方整備で可能な場所		
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。	
宇山委員	△ ⇒○△	美術館来訪者のうち、日ノ丸自動車、日本交通の砂丘線(鳥取駅~子供の国入り、下り)及び日本交通の岩美・岩井線(鳥取駅~子供の国入り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ18本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり平均23分程度である。ほかにループ線も運行しているが、観光シーズンにおいて渋滞が発生しているが、増便は十分可能性があるようである。	○	鳥取砂丘の年間入込数130万人の誘導が可能である。砂の美術館との連携が相乗効果につながる。(風光明媚は抜群)	-	-	-
船越委員	x	公共交通によるアクセスは、鳥取駅から6Km余りで近くも遠くもないと感ぜられる。しかしバスの便が1日12便(平日)では少ないと感ずる。バス停が離れており候補地まで経路を迂回せねばならないが、採算がどうか疑問。	○	鳥取砂丘の中なので誘導は大いに可能。	-	-	x
佐分利委員	△	砂丘子どもの国も入り口までしかバスが来ないが、美術館、子どもの国等を経由するバス路線ができれば、様々な人が訪れやすい。JR 駅、市街地から離れているが、車でのアクセスは良い。	○	鳥取砂丘の、西側からのアプローチとして興味を持たれる。鳥取城址一帯と連携して、観光ルートをつくる。城址から、砂丘美術館へのループバスを作る。	○	○	○
川井委員	x	鳥取砂丘からやや距離があり、また、自動車では防犯が難しい立地。砂丘に来た観光客がわざわざ美術館を訪れるかという点に疑問が残る。県民には行きづらい場所ではないか。	○ ⇒△	鳥取砂丘を訪れる人の大半は県外からの観光客であることが推察され、かつ、付近に商業施設等は存在しないため、県内の買物客が鳥取砂丘を訪れる機会は少ない。買物客に限定しなければ近隣の「子どもの国」を訪れる県民は一定数あり、その誘導は可能と思われるが、とりぎん文化会館などと比較した場合、集客力は低いと思われる。(別添追加資料参照)	x	x	x
中島委員	△	鳥取駅からかなり離れている。また西部地区から2時間位かかるので。	△	砂丘の中にあり、子どもの国。	△	△	x
野田委員	○	年間130万人集客の実績	○	鳥取県を代表する観光地での立地	△	○	○
谷本委員	-		-		-	○ ⇒△	-
前田委員	△	JR鳥取駅から距離があり、交通アクセスは良いとは言えない。バスか車を利用。	○	砂丘は背景としては眺めは抜群である。観光客には良いが、県民にとっては疑問。	△	△ ⇒○△	△ ⇒△
里見委員	x	・最寄りのJR駅が鳥取駅で、距離が6.35m ・鳥取駅からは路線バスが12本/日程度あり、バス停より徒歩12分 ・県東部、関西からの車のアクセス比較的良好である。	△	鳥取砂丘の一面にあり、訪問客の誘導が期待できる	△	△	△
牧野委員	x	JR特急停車駅から徒歩圏内ではない。バス便も良好とは言えない。	x	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。他の候補地と比べると、砂丘を訪れる動機と美術館の存在価値の一体性は低い。	x	x	x
香川委員	△	循環バスはあるが、車での移動が前提となる。	△	砂丘観光および子どもの国との連携が考えられるが、客層は同じか。砂の美術館との連携は可能。	△	x ⇒△x	△ ⇒○△
前野委員	○	鳥取駅から子どもの国へバス20分毎、土日夏季にはループバス有り	△	鳥取砂丘、砂丘の美術館に観光客を誘導出来るかどうか不明。子どもの国は近いが、目的の異なる訪問客ではないか。	△	○	○ ⇒○△

他の地域の候補地の多くが郊外であった。砂丘であれば鳥取市の中より、鳥取県内という点で、納得できるのではないかと。選考について、英知の結果、逆手にとったアイデアでどこにもないものになることが懸念されるが、その上のゴルフ場は大丈夫らしいので、あの場所でも大丈夫かと思われる。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が恒力安価で可能な場所			
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の観光施設や観光施設訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。		
宇山委員	○	鳥取県の中央にあり、東部、西部から県民が利用しやすい。また観光客も呼び込める。倉吉駅から市内線で最寄りのバス停(倉吉パークスクエア北口)まで平日上り122便、下り124便。他にパークスクエア前で合同庁舎前まで上下それぞれ6便と交通アクセスは抜群に良い。三朝温泉からのバス路線もある。駐車場確保もOK	○	物販・娯楽施設、商店街等についてもパープルタウン、市営温水プール、食彩館、未来中心交流プラザと利用客を呼び込める。観光施設として赤瓦・白壁土蔵群、二十世紀製紙記念館、打伏公園、博物館と徒歩圏内にあり十分に誘導可能。	-	-	-	-
船越委員	○	県中部の主要駅である倉吉駅から約3km離れているが、候補地の周辺には路線により異なるバス停が数箇所あり、隣接して数箇所あり5~10分程度は運行されていること等。公共交通利用者のアクセスは便利・容易である。自家用車で訪れる人が多いと思われるが、周辺の道路事情もよく、隣接する未来中心の広い駐車場が共用できるし、増設も可能である。従ってこの条件には全く問題がない。	○	隣接する未来中心は、鳥取県内3大コンベンションホールの一つであり、各種の催しもよく開催される。隣り合わせの立地の為、移動する時に一般道路を横断する必要もない。従って未来中心の訪問客・参加者を美術館へ誘導する事は十分に可能と考えられる。	○	-	-	一つの区画では条件がクリアできない候補地が多い中で、最も条件に合致した候補地と考えられる。
佐分利委員	△	県中部で、車では全県から同じような時間で来られる。一方、バスが1日8便と少なく、大通りには60便のバスが運行していること等。数百mの距離だとしても、障がいのある人や高齢者、幼児などが安全にゆったりと美術館に来ることができるとは課題がある。	○	パークスクエア複合ゾーンのホール、会議室、二十世紀製紙記念館、交流プラザ、図書館、温水プール、飲食店等がある。マーケット、商店街も近い。白壁土蔵群、椿の平とも近い。東照、羽合、三朝の温泉街がある。	○	△	△	用地は広々としており、建物と敷地内の環境は美術館の機能、ユニバーサルな施設整備等可能である。隣接の史跡をどのように活用するか、あるいは整備するかで、美術館のありようが変わってくる。
川井委員	○	倉吉未来中心に隣接しており、無料で利用できる駐車場の収容台数も多い。バス停が付近にあり、バスの本数の増強も可能とのことである。倉吉駅からの距離は徒歩にはやや遠い(3km)という難点はあるが、他の候補地に比較すれば、アクセスが便利・容易である。	○	倉吉市は鳥取県中部に位置し、東部・西部から等距離にあることから、県民全体のアクセスという観点からすると、その難点には望ましい位置にある。倉吉市ラグビー場は、近隣に大型商業施設はない。その点において「買物客」に限定してしまえば、その誘導は難しい。しかしながら、買物を含んだ県民の移動の拠点をとらえた誘導という、より大きな視点で検討した場合、徒歩圏内にある二十世紀製紙記念館におけるイベント時の集客力を考えると、イベントに訪れた人が、その合間を見て徒歩圏内にある美術館を訪れることなども想定され、客の誘導という観点からは望ましい。イベントに訪れた人の誘導という観点からは、候補地の1つである鳥取市役所跡地においても、同様評価されるべき点である。ただ、上記のとおり、全県の住民の集客ということと考えた場合に、物理的、時間的な観点でアクセスの容易な倉吉市ラグビー場について評価が高い。(別添追加資料参照)	△	○	○	現在のラグビー場の代替施設を作る予定など、関係機関との調整も進んでいることが窺われる。敷地面積は22,000㎡以上あり、候補地として問題は少ないと思われる。
中島委員	○	倉吉駅から近く、定期バスの回数も多い。	○	二十世紀製紙記念館、赤瓦・白壁土蔵群など。	○	○	○	面積も22,000㎡あり、既に土地も整備されていて、更に上瀬公民館の駐車場が利用できる。
野田委員	×	アクセス悪い。	△	未来中心の来場者と美術館の来場者の層は必ずしも一致しない。	×	×	×	大講堂跡寺跡と美術館の立地は関係がない。
谷本委員	-		-		-	○	-	倉吉未来中心や白壁土蔵群等の周辺施設との連携に基づいた地域づくりが期待できる。ただし、中心市街地や周辺施設(倉吉未来中心を除く)からは若干の距離があり、ついでに寄るといふ行動など、波及効果がどこまで顕在化するのかわからない。
前田委員	△	JR倉吉駅から3km、バス停から150mであり、交通の便が良いとは言えない。	△	倉吉パークスクエア、白壁土蔵群、三朝温泉などの観光客を誘導可能。	△	△	△	倉吉パークスクエアを中心として美術館と連携した可能性はある。博物館や民間施設との相乗効果もある程度期待できる。
里見委員	○	・最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が3km ・倉吉駅からは路線バスが10分おき程度あり、バス停より徒歩4分 ・県東部、西部、岡山からの車のアクセス比較的に楽である。 ・周辺の駐車場の整備状況が良い。	○	・周辺に倉吉未来中心、倉吉図書館、倉吉博物館、白壁土蔵群と集客施設が存在する	○	○	○	・候補地は平坦で、敷地面積もあり建築計画には問題はない。 ・周辺駐車場の整備状況もよく、敷地を美術館に有効に利用できる。 ・隣地に文化財埋蔵地があるが、史跡範囲が確定しており建物建設の可能性のない分業観上の優位性が保たれる。また埋込深さが少ないと屋外展示にも利用が可能とのことである。
牧野委員	○△	JR特急の停車駅の徒歩圏内ではないが、バス便は多く、鳥、バス停に近接する。県外、国外からの利便性は、空港、港を意識する時、県西部にあり、県東部に隣接する。	○	倉吉パークスクエア(製紙記念館、会議室、飲食施設等)、スーパー、市立図書館(金蔵併設)が隣接し、徒歩圏内に、倉吉市役所、市立博物館、白壁土蔵群等が立地。周囲は、県中部有数の商業地域。	○	○	○	市街地内に残された広大地であり、隣接することとなる大講堂跡寺跡も含め、従来より再開発が期待されている立地。周囲には市街地でありながら未利用地もあり、市街地的、街づくり的投資効果と効果が認められる。
香川委員	△	車での来場については、駐車場は大型車を含めて周辺で十分に確保できる。空港、JR駅から距離はあるが、倉吉駅からのバス停にも近い。	○	パークスクエア、白壁土蔵群などとの連携が可能。	△	○	○	広さは十分。建物予定地は大講堂跡寺跡の文化財対象外。
前野委員	○	倉吉駅からバス1時間10分、バス停から300m	○	未来中心(年間20万人程度)、二十世紀製紙記念館(11万人)、赤瓦、白壁土蔵群(60万人)	○	○	△	倉吉市有地22060㎡。ただし、現在ラグビー場であるため移設する必要がある。移設先の確保と費用が不明。倉吉市ラグビー協会会長から理解を得ているとの説明があったための修正。ただし、候補地が火災に強いので△○とする。

同一区画内に飲食施設・食彩館があり店舗が営業中で、旅館者の飲食にも対応。倉吉市の推薦図書を提供すると表明し、候補地と認められます。

できればゲストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所	
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。
宇山委員	×	美術館来館者のうち、目ノ丸自動車の三朝線（倉吉駅～温泉病院前 上り、下り）を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日10本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり17分～23分である。既存の駐車場（三朝町総合スポーツセンター、三徳川緑地公園）は三徳川の対岸にあり、少し利用しにくい。特にスポーツセンター利用時には利用できないし、河川敷の駐車場も大雨洪水が予想されときには敬遠される。	—	—	×	—
船越委員	×	山の中という感あり。特に積雪時に接近が困難になる方角があるのでは？ 又候補地に隣接してみさきこども園があり、交通量が増えた時の安全確保にも懸念がある。既存の駐車場を数か所示してあるが、いずれも400～1,000mと隣接とは言えない距離がある。	—	—	—	—
佐分利委員	×	1時間に3本の倉吉とのバスがあるが、バス停が橋を渡り250m先である。バスを降りてからの歩道の整備が必要。障がい者や高齢者が日常的に訪れる場所になりにくい。こども園、老人施設に隣接しており、橋を渡ってからの車道が共用になることから安全、保育環境の面から不安がある。	△	△	△	×
川井委員	△	三朝温泉地内にあり、徒歩5分程度のところにバス停がある。自動車、バスでの来訪が必要。	△	△	×	×
中島委員	×	JR倉吉駅から遠すぎる。主要道路9号線が遠すぎる。	△	△	△	○
野田委員	×	温泉地の客と美術館の来場者の間には関連はほとんどない（箱根のような首都圏からくる大規模温泉地とは異なる）	△	×	×	△
谷本委員	—	—	—	×	×	—
前田委員	×	交通アクセスが不便。	△	×	×	△
里見委員	×	最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が8km。倉吉駅からは路線バスがあるが、1時間に3本程度	△	△	△	△
牧野委員	×	駅通から遠い。バス便は良好とは言えない。	△	△	×	△
香川委員	×	倉吉駅からバス（直通）で15分程度だが本数は少ない。車でのアクセスが中心になるが、現状の駐車場のキャパは少ない。	△	△	△	○
前野委員	△	倉吉駅からバス（1時間に3本）	△	△	△	×

誘致に対する取り組みはなしと推薦書に記載してある事も気になる。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。



	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所		
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。	
宇山委員	×	美術館来訪者のうち、日本交通の橋津線(倉吉駅~衛生環境研究所前 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日3~4本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり1時間10分~3時間23分程度となり利用しづらい。バス停下車 徒歩3分はOK、駐車場確保OK	物販・娯楽施設・商業施設は可内線道路沿いにあるが、どこでもあるような日常景色であり集客は期待できない。観光施設については移動の多くは車であるが、一定の誘導は可能。(風光明媚)	—	—	—	—
船越委員	△	公共交通によるアクセスはバスの便数が少ないためやや不便。観光バス・自家用車での来館は山陰道のハイウェイCから近いので便利・容易と言える。但、駐車場が隣接した施設と共用で3か所に分散しており、合計100台分では不足と思われる増設の要あり。	—	—	—	—	—
佐分利委員	×	倉吉-羽合-泊間のバスがある(1時間1本)。倉吉駅からタクシーで14分、松崎駅から11分離れている。はわいインターから車で6分と、時間がかかる。日常的に県民が訪れるには不便である。東郷へ抜ける道からの眺望は抜群で、泊インターからのアプローチは価値がある。	東郷湖周辺の、ウォーキングゾーンの拠点がある。ハワイ夢広場、ローテースケート場、テニスコートと、運動施設が整備されている。野球場や、体育館を壊すより、スポーツ施設を充実して、羽合温泉とタイアップしたほうが良いと思われる。	△	△	×	△
川井委員	×	バス停までの距離が遠い。自動車での来訪以外に手段がない。	県民が訪れやすい施設という観点で評価した場合、本候補地の周辺には集客を見込める商業施設等がないことや、自動車、バス以外で訪れることが難しいという立地上の問題からすると、「買物等に訪れた県民を誘導する」という点は難しいと言わざるを得ない。湯梨浜町の説明文書に列記されている東郷湖周辺の各施設は、観光施設や教育機関であり、各施設を訪れる方は美術館訪問が主目的ではない以上、その方々を美術館に誘導するには、各施設と美術館候補地が徒歩圏内であるなど、美術館を訪れることが容易である立地が必要と思われる。	×	×	△	—
中島委員	△	JR倉吉駅からは近いが、東部・西部からは1時間ほどで車がつきます。バスは1時間に1本です。9号線や山陰道から車で7~8分。	はわい温泉・東郷温泉があり、又、中国庭園無類園もあり、また近くに海水浴場が多くあります。	○	△	○	○
野田委員	△	交通アクセス悪い	—	×	×	△	△
谷本委員	—	—	—	×	×	—	—
前田委員	×	交通アクセスが良くない。バスは1時間に1本で、バス停から200m。	—	×	×	—	—
里見委員	×	・最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が7km ・倉吉駅からは路線バスがあるが、1時間に1本程度。 ・県東部、県西部、岡山県からの車のアクセスは比較的良好	東郷湖周辺の温泉宿泊施設や公園があり、可能性はある。	×	△	×	×
牧野委員	×	鉄道駅から遠い。バス便は良好とは言えない。	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度が低いと言われている。	△	×	△	—
香川委員	△ →△×	車でのアクセスになる。9号線、山陰道インターから近い。近隣にバス停(倉吉から)があるが、現状では1時間に1本程度。	はわいの温泉との連携。東郷池の景勝。	△	△	△	×
前野委員	×	倉吉駅から1時間に1本のバス。	はわい温泉	△	△	×	×

東郷池水系の浸水、津波対策が平成33年には完了予定。

	1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所	
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。
宇山委員	× 美術館茶館者のうち、日本交通の松崎・北方線（倉吉駅～長和 上り、下り）を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日4本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり、1時間08分～3時間30分程度となり利用しづらい。 近接のバス停長和田まで徒歩10分かかる。	△ ⇒△/	—	—	—	—
船越委員	× バスによるアクセスは90分に1本程度であり、便利・容易とは言えない。バス停から離れているがこれは停留所を新設すれば解消するので問題とはならない。バスの本数が少なすぎるのが問題である。増便という考え方もあるが、路線バスの維持は、その採算性から簡単ではない。	—	—	—	—	—
佐分利委員	× JR 松崎駅から2.6km、倉吉からのバス1.5時間に1本と公共交通の便が悪い。しかも、バス停からは10分かかる。誰でも来やすい場所とは言いがたい。	○	△	○	△	○
川井委員	× 湯梨浜町内の他の候補地と比べ、最寄りのJR松崎駅にもっとも近いことは評価できる。 しかし、自動車以外での来訪の手段がなく、交通アクセスが便利であるとは言いがたい。	×	×	×	△	—
中島委員	△ JR倉吉駅・松崎駅から近い。また9号線やインターチェンジからも近い。東部・西部からも車で1時間そこそこで。	○	○	△	○	○
野田委員	× 交通アクセス悪い	△	×	×	△	△
谷本委員	—	—	—	×	—	—
前田委員	× 交通アクセスが良くない。	×	×	×	⇒△	—
里見委員	× ・最寄りのJR駅が松崎駅で、距離が2.6km。 ・倉吉駅からは路線バスがあるが、1.5時間に1本程度、バス停からの距離がある。	△	×	×	×	△
牧野委員	× 鉄道駅から遠い。 バス便は良好とは言えない。	×	△	×	△	—
香川委員	△ ⇒△×	○ ⇒○△	△	△	○	△ ⇒△×
前野委員	× 倉吉駅から1時間に1本のバス。	△	△	△	△	△

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

	1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所								
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。							
宇山委員	×	美術師菜穂子のうち、日本交通の橋津橋、(倉吉駅～臨海公園前 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日3～4本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり1時間10分～3時間23分程度となり利用しづらい。バス停下車徒歩すぐOK、駐車確保OK	△ ⇒△×	物販・娯楽施設・商業施設は町内幹線道路沿いにあるが、どこでもあるような日常景色であり集客は期待できない。観光施設については移動の多くは車であるが、一定の誘導は可能 (風光明媚)	—	—	—	—					
船越委員	×	バスが概ね1時間1本と少ないので公共交通でのアクセスは便利とは言えない。観光バス・自家用車でのアクセスは、山陰自動車道はわいICから3Kmで便利・容易である。但、やはり自前の駐車場が必要である。	—	—	—	—	—	—	郊外での立地で1万2千㎡余りでは駐車場用地を確保すると、本体分の用地が狭小になってしまうのでは。				
佐分利委員	△	バスは1時間に1本、すぐ近くにバス停はある。幹線は整備されている。	×	幹線道路沿いに店舗等一切無く、ここに来てしまったら、他にいくところは無い。羽合温泉中心部にも2kmと歩くには遠い。	△	臨海公園との連携はどのように考えられるか疑問がある。	—	×	市、県、民有地を合わせて提示され、また、標高の差もあり、特に、ユニバーサルな施設及び施設周辺の整備に不安がある。	—			
川井委員	×	湯梨浜町内の他の候補地と比べ、バス停が近いという点は評価できる。しかし、便数が1時間に1本と少ない。自動車での来訪以外に手段がなく、交通アクセスが便利・容易とは言いがたい。	×	観光が訪れやすい施設という観点で評価した場合、本候補地の周辺には集客を見込める商業施設等がないことや、自動車、バス以外で訪れることが難しいという立地上の問題からすると、「買物等に訪れた県民を誘導する」という点は難しいと言わざるを得ない。湯梨浜町の説明文書に記載されている東郷湖周辺の各施設は、観光施設や教育機関であり、各施設を訪れる方は美術館訪問が主目的ではない以上、その方々を美術館に誘導するには、各施設と美術館候補地が徒歩圏内であるなど、美術館を訪れることが容易である立地が必要と思われる。かかる観点から、羽合野球場、長和田地内候補地、旧旅館団地を見ると、いずれも、各施設から徒歩圏内とは言いがたく、いわば「わざわざ来る必要がある」という立地であることは否定できないように思われる。「買物等をする客の誘導」という可能性は低いものと考えられる。	×	付近に見るべき施設がない。	×	△	敷地面積が広い。	—			
中島委員	△	東部・西部から車で1時間ほどで来ます。9号線やインターチェンジに近く、また倉吉駅に近い。バスは1時間1本ほどなので。	○	東郷湖羽合臨海公園があり、またはわい温泉・東郷温泉に近い。中国庭園燕趙園もあり。	○	ハワイアロハホール・ハワイ風土館・ひかり園に近い。鳥取短期大学・鳥取看護大学に近い。	△	○	面積は12,000㎡であり、また東郷湖羽合臨海公園に面している。	○			
野田委員	×	交通アクセス悪い	×	—	×	特になし	×	△	不利	△			
谷本委員	—	—	—	—	—	—	×	—	東郷湖という観光地があるが、美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が近隣に見当たらないことから、地域づくりへの寄与は限定的と考えられる。また、近隣に住宅があり、生活への影響も懸念される。	—			
前田委員	×	交通アクセスが良くない。車のみ。	×	—	×	文化施設とのつながりが見当たらない。	×	⇒△	ハワイ・東郷温泉があるが、連携は限定的である。	—			
里見委員	×	・最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が7Km ・倉吉駅からは路線バスがあるが、1時間に1本程度。 ・県東部、県西部、岡山県からの車のアクセスは比較的よい。	△	・東郷湖周辺の温泉宿泊施設や公園があり、可能性はある。	×	・あまりない	△	×	・平坦で、敷地面積が広いが道路で区画された3つの敷地であり、建物計画の自由度が束縛される可能性がある。(町の付替えて利便性向上) ・海岸線に近く、美術品の展示、収蔵や屋外展示物に塩害対策が必要である。 ・東郷湖周囲は地盤沈下の可能性がある	△	・地盤の液化化を調査検討する必要があると考えられる。		
牧野委員	×	鉄道駅から遠い。バス便は良好とは言えない。	×	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度は高いとは言いがたい。徒歩圏内に特筆する施設無。	△	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度は高いとは言いがたい。徒歩圏内に特筆する施設無。	×	△	美術館が新設されることによる地域の変化、他施設の新規立地、住民のための新しい地域づくりが想定できない。	—			
香川委員	△ ⇒△×	車でのアクセスになる。9号線、山陰道インターから近い。近隣にバス停(倉吉から)があるが、現状では1時間に1本程度。	△	はわいの温泉との連携。東郷池の景勝。	△	はわいの温泉との連携。東郷池ウォーキング。	△	△	鳥取版CCRC (Continuing Care Retirement Community) 構想との連携。	△	広さは十分。一部民地だが理解は得ている。水路、道路の関係で、3分割利用が、路線の付け替えが必要。⇒△×	周辺での地盤変動卓越周期は1.4秒ほどで、軟弱層が非常に厚いと思われる。東郷池水系の浸水、津波対策が平成33年には完了予定。	できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。
前野委員	×	倉吉駅から1時間に1本のバス。バス停から近い。	△	はわい温泉	△	はわい風土館、羽合歴史民俗資料館、図書館などがあるが利用人数が少ない	△	△	県有地、町有地、民有地が混在。地権者には確認済み。12473㎡	△	浸水想定0-1.0m。		

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所		
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。	
宇山委員	△ ⇒○△	美術館来客者のうち、日ノ丸自動車赤崎線(倉吉駅～北条町役場大栄町前 上り、下り)及び日本交通の北条線(倉吉駅～北条町役場大栄町前 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日10本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり平均4.3分程度。しかし、JR由良駅から徒歩8分程度であり、JRを利用すれば上下20分程度の間隔になる。	△	観光施設として集客力のある「道の駅大栄」、「青山剛昌ふるさと館」がある。	-	-	-
船越委員	△	主要駅たる倉吉駅から約10kmありやや遠い。由良駅を起点としたバス路線がなく、倉吉駅からの便となる。最寄りのバス停に平日は2.3便、土日祝日は1.8便とやや少ない。駐車場は敷地面積からすれば十分確保できる。	×	近隣の観光施設は青山剛昌ふるさと館であろうが、観光客の年齢層等に偏りがあると思われ、誘導可能かと問われれば、不可能とは言えない程度か。	-	-	敷地面積が広いので十分可能。
佐分利委員	△	JR 駅から650m、バス停は300m位と近く、歩道も広く整備されていた。しかし、旧国道を横断しなくてはならないこと、コナン通りに曲がるあたりの歩道の整備が不十分で、車椅子、高齢者、視覚障害者などは通りにくい。国道9号線からの車のアクセスは良い。	△	青山剛昌ふるさと館と結ぶコナン通りがあるが、コナン通りには他に何も無いという感じである。店舗がなく、道を魅力のある方向で整備できないと、観光という面では相乗効果にはならない。川の風景はとても風情があるので、そちらを活かすことも考えられる。	×	×	土地は広く、ユニバーサルな施設の整備も可能である。
川井委員	○	由良駅から徒歩圏内にある。国道9号線から南に約800mのところであり、今後ICも設置される予定。	○ ⇒△	年間10万人を超える青山剛昌ふるさと館と由良駅の間には候補地があることから、観光客の誘導の可能性は高い。北条町が提出した資料等から見て、観光客の数は増加しており、名探偵コナンを中心とした観光の街づくりが町の努力により成果を収めていることが十分に窺われる。しかしながら、買物客の誘導、言い換えれば、買物等の日常生活において訪れた県民を誘導できるかという観点で評価した場合、近辺に県民を集客する施設があるわけではない。そうすると、(買物等の日常生活の中で)訪れた県民を誘導する、という観点から見た場合、候補地周辺を訪れる県民がいるのか、という疑問が残ってしまう。由良駅から徒歩圏内にあるという利点はあるが、最寄駅とする県民を対象とした集客施設がないことなどからすると、買物客の誘導という点は期待しがたい。詳細に関して、従前は、青山剛昌ふるさと館を訪れる観光客の誘導という観点から○としていたが、買物客(県民)の誘導という点を重視し、△に変更する。	△	△	北条町が「名探偵コナン」を中心とした街づくりを模索しているが、県立美術館のコンセプトと合致するかわからない。また、名探偵コナンを呼び出した集客が永続的でなかった場合、それ以外の呼び物がなければ、北条町に美術館を誘致することには不安が残る。
中島委員	○	倉吉駅からは少し遠いが、定期バスの回数が多い。また9号線に近く、東部・西部からも1時間ほどで着く。由良駅から近い。	○	青山剛昌ふるさと館。道の駅大栄。	△	○	敷地内に年内には集合店舗を建設予定。面積も25,000㎡あり
野田委員	×	交通アクセス悪い	×	青山剛昌ふるさと館の来場者と美術館の来場者は関係が薄い	△	×	美術館による地域再生は困難と思われる。
谷本委員	-		-		-	△	多くの芸術家を輩出している地域であり、また、青山剛昌ふるさと館などの観光地がある。しかし、青山剛昌ふるさと館と美術館では客層が異なると考えられ、地域づくりに対する相乗効果が十分に発揮できない恐れがある。
前田委員	× ⇒△	県内外の観光客にとって行きやすい場所とは言えない。	× ⇒△×		△	× ⇒△×	前田寛治、生田和幸の出身の地として美術館は直接的に結びつくものではない。
里見委員	△	・JRコナン駅には近いが、特急停車駅ではない。 ・倉吉駅からは路線バスがあるが本数が少ない。 ・県東部、県西部、岡山県からの車のアクセスは比較的整備されている。	△	・名探偵コナン作家の青山剛昌ふるさと館が700m北にあり連携が可能である。	△	△	・周辺には建物がないが、コナン通りの取り組みの沿道に位置し、連携が可能である。 ・平坦で、敷地面積が広く、建物計画に支障はない。 ・海岸線に近く、美術品の展示、収蔵や屋外展示物に塩害対策が必要である
牧野委員	△	鉄道駅の徒歩圏内であるが、特急は停車しない。県中部に位置するものの、海外を意識する時、米子空港、境港からのアクセスに難がある。バス便は良好とは言えない。	△	近年乗客数が増加しつつあるコナン館に近接し、町を挙げて、新規の商業施設立地も含めて地域計画を策定中。ただし、相互に好影響を与えるべき他の施設に乏しい。	△	○△	小規模と思われるが、商業施設の新規立地、地域住民の街づくりへの参加啓蒙が進捗すると期待される。
香川委員	○ ⇒○△	9号線より近い。山陰道の(将来的な)インターからも近い。周辺を含めて駐車場あり。JR由良駅から徒歩圏だが、列車本数は多くない。レンタサイクル利用可。境港航路(大型客船)からのバスも見込める。	△	青山剛昌ふるさと館には10万人/年(外国人10%、県外者85%)と外からの観光客が多い。美術館との客層は同じか?	△	○	台場跡、道の駅、物産館(予定)などと連携した総合発展は可能。旧免許試験場として、県内全域から人が集まっていた場所。大山、海岸など景色は良い。
前野委員	△	JR由良駅から徒歩可。ただし、泊まる電車の数が少ない。倉吉駅からはバスがあるが便数が少ない。	△	青山剛昌ふるさと館との距離が650mと近い。コナン通りに年間10万人が訪問し海外からも訪問客が多いが、美術館に全員が立ち寄るかどうかわからない。今後、北条商工会の集合店舗が出来るとして若干の集客力の増加が見込まれる。	△	○	北条文化センターとして地域作りを進めている。駅にも近く、青山剛昌ふるさと館との距離も近い。

人口集積地ではなく、郊外型に属すると思われる事が集客面で難点か。

できればジャストポイント、可能な限り近隣におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所								
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の乗客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。							
宇山委員	×	定期路線バスはなし。マイカー90%。植田正治写真美術館前からのデマンドバスが溝口駅、岸本駅方面に出ているが1日4本がでていて、1時間前予約制なので利用しづらい。	×	植田正治写真美術館は冬季（12月～2月）は休館になるので誘導はむずかしい。大山ガーデンプレイスほか物産販売、食事処があるが距離があり車がないと移動は難しい。	—	—	—	—	ロケーションは素晴らしい。この地が結果次第で防災拠点になる予定				
船越委員	×	最寄りの駅はJR岸本駅となるが、待合停車駅ではないバスの便も非常に少ない。従って米子駅が最寄り駅となるが、約1.1kmの距離がある。いかせんバスの便が極度に少ないので、公共交通のアクセスが便利・容易とは言い難い。	×	近隣には隣接する植田正治写真美術館以外に乗客施設がなく、他施設の訪問客の誘導は困難。	—	—	—	—					
佐分利委員	×	基本的に自家用車や観光バスでのアクセスになる。これまでのような、土日祝日のループバスではなく、常に乗り合いバスが通るようになると良いが、JR米子駅、JR岸本駅からの連絡、かかる時間が課題で有り、県民が、また誰でもが日常的に訪れる場所としては無理がある。	△	隣接の植田正治写真美術館との共存になるが、双方の個性を活かせるかが問題である。ここからの大山の眺望そのものが観光資源であり、この風景は多くの人に見てもらいたいものでもある。大山地区の他の施設への観光と県立美術館は結びつきにくい。	△	植田正治美術館があまりにも近すぎて、県立美術館ができる。その別館のように感じる。あるいは逆に、植田正治美術館への認識が高まるかも知れない。	×	地域づくりとは分離すると思われる。	△	土地は広いが、段差が有り、風景を活かした施設ができるのか疑問がある。土地整備にも苦心が必要のように思う。上記の問題が解決すれば、ユニバーサルな施設整備は、可能だと思う。美しい風景を活かしたもので、誰でも使いやすい施設が整備できれば、様々な人が豊かな気持ちになれる。	—		
川井委員	×	JRの駅から約3.2kmありタクシーで7分。付近にバス停があるものの便数が少ない。大山の麓であり、市街地から訪れるには自動車30分程度かかる。	×	県民が買物等の日常生活で訪れる施設が周辺に存在しない。伯耆町が提出した「鳥取県立美術館建設候補地推薦調査」にも、物販・娯楽施設・商店街の類は「近隣にはない」と記載されており、誘導すべき買物客が存在しないと評価せざるを得ない。しかも、候補地のアクセスは、自動車から米子道のICから5分、国道181号線から7分という距離にあり、東部在住の県民が来るには不便であるし、西部に来た際に美術館に立ち寄るといふ立地ではない。 (別添追加資料参照)	×	周囲に施設等がないため、文化施設や教育機関との連携は考えにくい立地。	△	鳥取県立美術館、花回廊との連携も模索されるが、大山の麓という立地からすると、この点を他の候補地と比較して、優れているとは評価できない。	△	※記載なし	—		
中島委員	×	米子駅から遠すぎる。又定期バスもほとんどない。	○	植田正治美術館の隣で、また大山やとっとり花回廊に近い。	△	△	△	△	△	面積は19,000㎡であり、大山が見えて。	○		
野田委員	×	交通アクセス最悪（路線バスなし）	×	植田正治美術館の集客力は弱い	×	植田正治美術館のみ	×	周りは畑	△	△	△		
谷本委員	—		—		—	△⇒△×	△⇒△×	眺望がよく、また、植田正治写真美術館との連携が可能であるが、周辺施設までの距離が長く、自家用車を利用した観光客のみが顧客になる可能性が高く、地域全体に関する相乗効果は限定的である恐れがある。	—	—	—		
前田委員	×	交通アクセスが良くない。	×	大山が美しく眺望できるが、年間50%の確率である。飲食店がない。	×	植田正治美術館が隣接するものの、年平均2万人の入館者であり、連携しても難しい立地である。	×	大山を中心としたリゾート地であるが、近隣に飲食店も少なく、文化施設も植田正治美術館が年間2万人の入館者と聞いているが、それだけではいづら景観が良くても、地域住民への貢献はできて、県立美術館の立地には難しいと思う。	—⇒△	—	—		
里見委員	×	JR、路線バスの交通の利便性に距離、運行間隔など問題がある。 ・車の利便性は、米子道のインターから近い。	△	候補地は大山への眺望がよく、周辺観光施設は集客力はある。	△	植田正治写真美術館に隣接し、協働での取り組みの可能性があるが、冬季の集客力が問題である。	×	・農地のなかにあり、周辺は定住住民の集積が少なく、広域での視点での視点が必要となる。	△	△	・敷地面積はあるが、植田正治写真美術館建設時の現存する大山を眺望するスポットを確保するため建物高さに制限がある。 ・敷地内に高低差があり、バリアフリーの対応が必要である。 ・既存施設があり、撤去が前提となる。 ・広域下水道未整備地域であり、合併処理施設が必要となる。	○	・特に問題はない。
牧野委員	×	駅から遠い。バス便は良好とは言い難い。	×	植田正治美術館に隣接している外は、特筆する施設無。著名な大山観光区域であるが、来客数増加に結び付くかは不明。	△	植田正治美術館に隣接している外は、特筆する施設無。著名な大山観光区域であるが、来客数増加に結び付くかは不明。	×	美術館新設による新たな投資、地域づくり運動の展開が予測できない。	△	△	—		
香川委員	⇒△×	車（インターは近い）では可だが、公共交通機関での移動が困難。	×	車では可だが、公共交通機関での相互移動が困難。	△⇒△×	植田正治写真美術館との連携は可能。同美術館の外観とマッチしたデザインには経費が必要と思われる。	△	観光客の誘致が目的か、県民啓蒙のための美術館なのか整理が必要。	○⇒△	○⇒△	△	△	帝京すこやか村の建物、植田正治写真美術館の建築確認ボーリングなど情報の確認が望ましい。
前野委員	×	バスの定期路線がない。米子駅から距離がある。	△	隣に写真美術館がある。大山地区のホテルや別荘地などがあるが親子連れなどはどちらかというとフィールドアスレチックや乗馬体験などに行くことが予測されるため、十分な訪問客を見込めない可能性がある。	×	隣に写真美術館がある。雪のため冬季休館するため一年を通じての利用が見込めない。周辺施設が離れており連携しにくいと考えられる。	△	他の関連施設と離れており十分ではないが地域作りにはある程度貢献できると考えられる。	○	○	○	○	防災面は問題は少ないと考えられる。

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所								
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。							
宇山委員	×	美術館来館者のうち、日ノ丸自動車の吉岡線（鳥取駅～倉見 上り、下り）を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日10本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたりそれぞれ平均4.3分程度になる。しかし、美術館入口まで約900mあると資料に記載されているが歩くには少し距離があるようです。	—	—	—	×	丘陵地であり、平地確保のため大規模な造成工事が必要となるなどコスト増になる。	—					
船越委員	×	周辺道路は進入路として十分なものがなく、当該地域は山間地の廃村跡のごくで道路が草に覆われており、車の乗り入れどころか、徒歩で近づく事すら困難。従って評価のしようがない。	—	—	—	—	—	—					
佐分利委員	△	山陰道のインターから近く、飛行場からも近い。JR駅からは遠い。高台にあり、巡回バスが上まで来れば便利である。	△	湖山池や出会いの森等の自然、布施運動公園があるが、美術館との関連があるか疑問である。	△	鳥取大学と近く、連携しやすい。	△	鳥取市の文化的地域が、西に広がる。湖山池周辺の活性化につながる。	△	敷地は広いようである。アクセスの問題がクリアできれば、ユニバーサルな施設も建設可能であるし、広大な風景も、多くの人に楽しんでもらえる。	—		
川井委員	—	—	×	本候補地については、その位置については、湖山池周辺と同様の評価が妥当なものと考えている。すなわち、鳥取市の他の候補地と比較して、近隣（たとえば徒歩圏内）は住宅地や大学等の教育施設はあるが、買物客等の集客を見込める施設はなく、商業施設を訪れた人を誘導すること困難である。	—	—	—	—	—	—			
中島委員	×	—	×	—	×	×	×	×	×	想定外です。無理だと思います。			
野田委員	×	交通アクセス悪い	×	鳥取大学からも離れている	×	湖山池は観光地化していない	×	×	△	—			
谷本委員	—	—	—	—	×	美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が近隣に見当たらない。周囲と隔絶した空間であるため、地域づくりへの寄与は限定的である。	—	—	—	—			
前田委員	×	交通アクセスが悪い。道路を作り直すにも大きな経費がかかる。20万人達成は不可能と考える。	×	集客施設等から遠く、20万人達成は不可能と考える。	×	関連施設はなく、相乗効果が期待できない。	×	場所的にまちづくりにつながらない。	— ⇒×	—			
里見委員	—	—	—	—	—	—	×	造成費用が大きいこと想定される敷地へのアプローチ道路整備費やバリアフリーの観点で疑問がある。有効利用できる敷地が不明	—	—			
牧野委員	×	JR駅から徒歩圏内ではない。バス便も良好とは言い難い。身体的弱者が歩行困難な道程。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。想定されるアクセス途中において、子供の遠足、自然そのものを求めるイベント、学術研究者等を除くと、当該地に至るまでのワクワク感が生じない。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。想定されるアクセス途中において、子供の遠足、自然そのものを求めるイベント、学術研究者等を除くと、当該地に至るまでのワクワク感が生じない。	×	新たに投資して地域づくりを推進する必然性が感じられない。地域住民、県民が集まって文化的活動を行うためには、あまりにも市街地から離れる。	×	切り土、盛土工事の費用が増大する。	—		
香川委員	×	公共交通機関でアクセス出来ず、車での移動が前提となる。	×	他の文教施設から遠い。	×	鳥取大学との連携が考えられるが、やや離れている。孤立した施設になる懸念がある。	×	眺望は良い。出会いの森とは客層が異なると思われる。他の文教施設から孤立する懸念あり。	△	△	地盤は堅固と思われるが、調査が必要。河川災害、土砂災害の危険は小さいと思われる。		
前野委員	×	交通アクセスはよくない。	△	湖山池を望む眺望はよいが、本施設単独で集客は望みにくい。	×	他の施設から孤立している。	×	近くに連携する施設がないため地域づくりに貢献しにくいと考えられる。	×	△	現地はかなり荒廃しているため、周辺整備がかなり必要となる。	△	以前の施設で大きな防災上の問題は無かったようであるが、現地を確認できていないので△とする。

鳥取県立美術館候補地評価表の訂正報告

委員氏名 川井克一

候補地名称	鳥取市役所跡地
訂正前の評価区分	△（立地条件に関する1（2）の項目）
訂正後の評価区分	○△
訂正後の評価理由	<p>県立美術館を多くの県民が訪れることができる魅力的な施設とすることを目指している点は、第1回の当委員会に出席した基本構想検討委員会の林田委員長のご発言においても確認されたところである。</p> <p>この点、候補地のバス停や駅からの微細な距離の違いによって、東・中・西部の買物客等を誘導できるかどうかが大きく変化するとは思われない。むしろ、県民が、買物を含む県内を移動する機会に、美術館がどこにあれば、立ち寄りやすいのかという観点から検討すべきである。かかる点から述べれば、鳥取県東部の候補地に美術館を設置するとなれば、物理的な距離関係からして、鳥取県西部在住の県民にとっては美術館が遠い存在となりかねない（これは、仮に西部に設置することになった場合に、東部在住の県民の方にとって同じことが言える）。そうすると、東部あるいは西部の候補地に設置するとすれば、県民が訪れる頻度の高い商業施設などが存在し、多くの県民が訪れやすい環境が整っていることが必要である。</p> <p>かかる観点から鳥取市役所跡地を評価した場合、周辺に全県民が訪れるような商業施設等が存在するわけではない。ただ、他の委員の方も指摘されるように徒歩圏内にとりぎん文化会館やわらべ館があり、前者のイベント時や後者を訪れる親子連れなど県民の誘導を期待することは可能と思われる。</p> <p>以上の点を踏まえ、評価を△→○△に改める。</p>

鳥取県立美術館候補地評価表の訂正報告

委員氏名 川井克一

候補地名称	わらべ館駐車場と西町緑地敷地
訂正前の評価区分	△（1（2）の項目）
訂正後の評価区分	△×
訂正後の評価理由	<p>県立美術館を多くの県民が訪れることができる魅力的な施設とすることを目指している点は、第1回の当委員会に出席した基本構想検討委員会の林田委員長のご発言においても確認されたところである。</p> <p>この点、候補地のバス停や駅からの微細な距離の違いによって、東・中・西部の買物客等を誘導できるかどうか大きく変化するとは思われない。むしろ、県民が、買物を含む県内を移動する機会に、美術館がどこにあれば、立ち寄りやすいのかという観点から検討すべきである。かかる点から述べれば、鳥取県東部の候補地に美術館を設置するとなれば、物理的な距離関係からして、鳥取県西部在住の県民にとっては美術館が遠い存在となりかねない（これは、仮に西部に設置することになった場合に、東部在住の県民の方にとって同じことが言える）。そうすると、東部あるいは西部の候補地に設置するとすれば、県民が訪れる頻度の高い商業施設などが存在し、多くの県民が訪れやすい環境が整っていることが必要である。</p> <p>かかる観点からわらべ館駐車場を評価した場合、周辺に全県民が訪れるような商業施設等が存在するわけではない。また、徒歩圏内にとりぎん文化会館やわらべ館等の集客施設があることは鳥取市役所跡地や県立武道館敷地と同様であるが、わらべ館に隣接する緑地をつぶして美術館を建設することは、これまでわらべ館を訪れていた子どもたちの遊び場を奪うことであり（代替施設があればよいという問題ではなく、わらべ館と一体となっていることに意味がある）、かえって集客力を損なうことが考えられる。</p> <p>以上の点を踏まえ、評価を△→△×に改める。</p>

鳥取県立美術館候補地評価表の訂正報告

委員氏名 川 井 克 一

候補地名称	鳥取市武道館敷地（県庁北側緑地敷地）
訂正前の評価区分	△（1（2）の項目）
訂正後の評価区分	○△
訂正後の評価理由	<p>県立美術館を多くの県民が訪れることができる魅力的な施設とすることを目指している点は、第1回の当委員会に出席した基本構想検討委員会の林田委員長のご発言においても確認されたところである。</p> <p>この点、候補地のバス停や駅からの微細な距離の違いによって、東・中・西部の買物客等を誘導できるかどうかが大きく変化するとは思われない。むしろ、県民が、買物を含む県内を移動する機会に、美術館がどこにあれば、立ち寄りやすいのかという観点から検討すべきである。かかる点から述べれば、鳥取県東部の候補地に美術館を設置するとなれば、物理的な距離関係からして、鳥取県西部在住の県民にとって美術館が遠い存在となりかねない（これは、仮に西部に設置することになった場合に、東部在住の県民の方にとって同じことが言える）。そうすると、東部あるいは西部の候補地に設置するとすれば、県民が訪れる頻度の高い商業施設などが存在し、多くの県民が訪れやすい環境が整っていることが必要である。</p> <p>かかる観点から武道館敷地を評価した場合、徒歩圏内にとりぎん文化会館やわらべ館などの集客施設がある点において、前者のイベント時や後者を訪れる親子連れなど県民の誘導を期待できる。この点は、鳥取市役所跡地やわらべ館と同様である。</p> <p>以上の点を踏まえ、評価を△→○△に改める。</p>

鳥取県立美術館候補地評価表の訂正報告

委員氏名 川 井 克 一

候補地名称	湖山池公園・湖山池オアシスパーク（多目的広場）敷地
訂正前の評価区分	×（1（2）の項目）
訂正後の評価区分	×
訂正後の評価理由	<p>県立美術館を多くの県民が訪れることができる魅力的な施設とすることを目指している点は、第1回の当委員会に出席した基本構想検討委員会の林田委員長のご発言においても確認されたところである。</p> <p>この点、候補地のバス停や駅からの微細な距離の違いによって、東・中・西部の買物客等を誘導できるかどうか大きく変化するとは思われない。むしろ、県民が、買物を含む県内を移動する機会に、美術館がどこにあれば、立ち寄りやすいのかという観点から検討すべきである。かかる点から述べれば、鳥取県東部の候補地に美術館を設置するとなれば、物理的な距離関係からして、鳥取県西部在住の県民にとっては美術館が遠い存在となりかねない（これは、仮に西部に設置することになった場合に、東部在住の県民の方にとって同じことが言える）。そうすると、東部あるいは西部の候補地に設置するとすれば、県民が訪れる頻度の高い商業施設などが存在し、多くの県民が訪れやすい環境が整っていることが必要である。</p> <p>このような観点から湖山池周辺を検討した場合、鳥取市の他の候補地と比較しても、近隣（たとえば徒歩圏内）は住宅地や大学等の教育施設はあるが、買物客等の集客を見込める施設はなく、商業施設を訪れた人を誘導すること困難である。</p> <p>以上の点より、評価を×とする。</p>



鳥取県立美術館候補地評価表の訂正報告

委員氏名 川井克一

候補地名称	鳥取砂丘西側一帯
訂正前の評価区分	○（1（2）の項目）
訂正後の評価区分	△
訂正後の評価理由	<p>県立美術館を多くの県民が訪れることができる魅力的な施設とすることを目的としている点は、第1回の当委員会に出席した基本構想検討委員会の林田委員長のご発言においても確認されたところである。</p> <p>この点、候補地のバス停や駅からの微細な距離の違いによって、東・中・西部の買物客等を誘導できるかどうかが大きく変化するとは思われない。むしろ、県民が、買物を含む県内を移動する機会に、美術館がどこにあれば、立ち寄りやすいのかという観点から検討すべきである。かかる点から述べれば、鳥取県東部の候補地に美術館を設置するとなれば、物理的な距離関係からして、鳥取県西部在住の県民にとっては美術館が遠い存在となりかねない（これは、仮に西部に設置することになった場合に、東部在住の県民の方にとって同じことが言える）。そうすると、東部あるいは西部の候補地に設置するとすれば、県民が訪れる頻度の高い商業施設などが存在し、多くの県民が訪れやすい環境が整っていることが必要である。</p> <p>しかし、鳥取砂丘を訪れる人の大半は県外からの観光客であることが推察され、かつ、付近に商業施設等は存在しないため、県内の買物客が鳥取砂丘を訪れる機会は少ない。買物客に限定しなければ近隣の「こどもの国」を訪れる県民は一定数あり、その誘導は可能と思われるが、とりぎん文化会館などと比較した場合、集客力は低いと思われる。</p> <p>以上の点から、評価を○→△に改める。</p>

鳥取県立美術館候補地評価表の訂正報告

委員氏名 川井克一

候補地名称	倉吉市営ラグビー場
訂正前の評価区分	○（立地条件に関する1（2）の項目）
訂正後の評価区分	○
訂正後の評価理由	<p>県立美術館を多くの県民が訪れることができる魅力的な施設とすることを目的としている点は、第1回の当委員会に出席した基本構想検討委員会の林田委員長のご発言においても確認されたところである。</p> <p>この点、候補地のバス停や駅からの微細な距離の違いによって、東・中・西部の買物客等を誘導できるかどうか大きく変化するとは思われない。むしろ、県民が、買物を含む県内を移動する機会に、美術館がどこにあれば、立ち寄りやすいのかという観点から検討すべきである。かかる観点から述べれば、倉吉市は鳥取県中部に位置し、東部・西部から等距離にあることから、県民全体のアクセスという観点からすると、その集客には望ましい位置にある。</p> <p>倉吉市営ラグビー場は、近隣に大型商業施設はない。その点において「買物客」に限定してしまえば、その誘導は難しい。</p> <p>しかしながら、買物を含んだ県民の移動の機会をとらえた誘導という、より大きな視点で検討した場合、徒歩圏内にある二十世紀梨記念館におけるイベント時の集客力を考えると、イベントに訪れた人が、その合間を見て徒歩圏内にある美術館を訪れることなども想定され、客の誘導という観点からは望ましい。イベントに訪れた人の誘導という観点は、候補地の1つである鳥取市役所跡地においても、同様に評価されるべき点である。ただ、上記のとおり、</p> <p>全県の住民の集客ということを考えた場合に、物理的、時間的な点でアクセスの容易な倉吉市営ラグビー場について評価が高い。</p> <p>以上より、評価を○とする。</p>

鳥取県立美術館候補地評価表の訂正報告

委員氏名 川井 克一

候補地名称	伯耆町すこやか村
訂正前の評価区分	× (立地条件に関する1 (2) の項目)
訂正後の評価区分	×
訂正後の評価理由	<p>県立美術館を多くの県民が訪れることができる魅力的な施設とすることを目指している点は、第1回の当委員会に出席した基本構想検討委員会の林田委員長のご発言においても確認されたところである。</p> <p>この点、候補地のバス停や駅からの微細な距離の違いによって、東・中・西部の買物客等を誘導できるかどうかが大きく変化するとは思われない。むしろ、県民が、買物を含む県内を移動する機会に、美術館がどこにあれば、立ち寄りやすいのかという観点から検討すべきである。かかる点から述べれば、鳥取県西部の候補地に美術館を設置するとなれば、物理的な距離関係からして、鳥取県東部在住の県民にとってはそれだけで、美術館が遠い存在となりかねない。</p> <p>かかる物理的な距離の問題を考慮すれば、西部の候補地に設置するとなれば、県民が訪れる頻度の高い商業施設などが存在し、多くの県民が訪れやすい環境が整っていることが必要である。</p> <p>この観点から本候補地を評価した場合、県民が買物等の日常生活で訪れる施設が周辺に存在しない。伯耆町が提出した「鳥取県立美術館建設候補地推薦調書」にも、物販・娯楽施設・商店街の欄は「近隣にはない」と記載されており、誘導すべき買物客が存在しない、と評価せざるを得ない。</p> <p>しかも、候補地のアクセスは、自動車で米子道のICから5分、国道181号線から7分という距離にあり、東部在住の県民が来るには不便であるし、西部に来た際に美術館に立ち寄るといふ立地ではない。</p> <p>よって、評価は従前のおり×とする。</p>